

大風起兮雲飛揚

高祖還歸、過沛、留置酒、沛宮、悉召故人、父老子弟、縱

酒、發沛中兒、得百二十人、教之歌、酒酣、高祖擊筑、自為

歌、詩曰、

大風起兮雲飛揚

威加海內兮歸故鄉

安得猛士兮守四方

令兒皆和習之。高祖乃起舞、慷慨傷懷、泣數行下。謂沛

父兄曰、游子悲故鄉、吾雖都閔中、萬歲後、吾魂魄猶樂

思沛。且朕自沛公以誅暴逆、遂有天。下、其以沛為朕湯

沐、邑復其民、世世無有所與。沛父兄諸母故人、日樂飲

極驩、道旧故、為笑樂、十餘日。高祖欲去、沛父兄固請留

高祖。高祖曰、吾人衆多、父兄不能給、乃去。  
(高祖本紀)

【書き下し文】

高祖還歸し、沛に過り、留まりて沛の宮に置酒し、悉く故人・父老・子弟を召して、酒を縦にせしむ。沛中の児を發して、百二十人を得たり。之をして歌はしむ。酒酣にして、高祖筑を撃ち、自ら歌詩を為りて曰はく、

大風起こりて雲飛揚す

威海内に加はりて故郷に帰る

安くんぞ猛士を得て四方を守らしめん と

児をして皆之を和習せしむ。高祖乃ち起ちて舞ひ、慷慨傷懷して、泣數行下る。沛の父兄に謂ひて曰はく、「游子故郷を悲しむ。吾関中に都すと雖も、万歳の後、吾が魂魄猶ほ沛を樂思せん。且つ朕沛公より以て暴逆を誅し、遂に天下を有てり。其れ沛を以て朕が湯沐の邑と為し、其の民を復し、世世与かる所有る無からしめん。」と。沛の父兄・諸母・故人、日に樂飲して驩びを極め、旧故を道ひて、笑樂を為すこと十余日なり。高祖去らんと欲す。沛の父兄固く請ひて高祖を留めんとす。高祖曰はく、「吾が人衆多し。父兄給すること能はざらん。」と。乃ち去る。

【口語訳】

高祖は（黥布の反乱を制圧した後）帰還して、（故郷の）沛に立ち寄り、沛の宮殿で酒宴を開き、あらゆる知人・長老・若者を招き、存分に酒を飲ませた。沛の子どもたちを呼んで、百二十人を集めた。子どもたちに歌を歌わせた。酒宴がたけなわになると、高祖は筑を打ち鳴らし、自分で歌詩を作って（次のように）歌った、

大風が起こって雲が飛揚する（ように私は立ち上がって世を平定した）。

（今や私の天子としての）威は天下に加わり、故郷に帰ってきた。

（今後は）なんとかして勇敢な士を得て、四方を守らせ（平和を維持し）たいものだ、と。

子どもたち皆に一緒に声を合わせてこの歌を習わせた。高祖はそこで立ち上がって舞い、感情を高ぶらせ心を痛め、涙を數行流した。（そして）沛の父兄に言った、「旅にある者は故郷を悲しいほど思い慕うものだ。私は関中に都を置いているものの、死後には、わが魂は（故郷の）沛を思い慕うだろう。それに、私は沛公（という低い地位）から起こって暴虐を誅滅し、かくて天下を手に入れた。（だから）沛をわが直轄地とし、沛の民の年貢や労役を免除し、代々（年貢や労役に）関わることはないようにしよう。」と。沛の父兄・婦人たち・知人らは、毎日楽しく飲んで喜びを極め、昔話をして、笑い楽しむこと十数日に及んだ。（その後）高祖は去ろうとした。（すると）沛の父兄は強く頼んで高祖を引き留めた。（しかし沛の民の出費を慮り）高祖は言った、「私の部下は数が多い。父兄は（彼らの）飲食をまかなうことができないだろう。」と。そして立ち去った。

